

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は 114 ~ 115 円台での振幅か

[2月28日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月21日~2月25日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	114.92	115.69(24)	114.41(24)	115.22	+0.21
ユーロ・ドル	1.1336	1.1390(21)	1.1106(24)	1.1217	-0.0105

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,476.50	-645.57	日本10年債利回り	0.211	-0.002
ダウ平均株価	33,223.83	-855.35	米10年債利回り	1.963	+0.035

=====

<来週の主要経済統計等>

- 28日 日本1月小売業販売額、日本1月鉱工業生産指数
 - 豪1月小売売上高
 - スイス1月小売売上高
 - スイス第4四半期国内総生産 (GDP)、スイス2月KOF先行指数
 - カナダ第4四半期経常収支、カナダ1月鉱工業製品価格
 - 米2月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 豪第4四半期経常収支
 - 中国2月製造業購買担当景気指数、中国2月財新製造業購買担当景気指数
 - オーストラリア準備銀行 (RBA) 政策金利
 - 独1月製造業PMI確報値、ユーロ圏1月製造業PMI確報値
 - 英1月製造業PMI確報値
 - 独2月消費者物価指数速報値
 - カナダ第4四半期国内総生産 (GDP)
 - 米1月製造業PMI
 - 米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出
 - バイデン米大統領一般教書演説
 - 主要7カ国 (G7) 財務相・中央銀行総裁会議 (オンライン)
- 2日 豪第4四半期国内総生産 (GDP)
 - 独2月雇用統計
 - ユーロ圏2月消費者物価指数速報値
 - 米2月ADP雇用統計
 - カナダ銀行 (BOC) 政策金利
 - パウエル米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長議会証言
 - 石油輸出国機構 (OPEC) プラス閣僚級会合
- 3日 豪1月住宅建設許可件数、豪1月貿易収支
 - スイス2月消費者物価指数
 - 独1月非製造業PMI確報値、ユーロ圏1月非製造業PMI確報値
 - 英1月非製造業PMI確報値
 - ユーロ圏1月生産者物価指数、ユーロ圏1月雇用統計
 - 米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数
 - 米2月ISM非製造業景況指数、米1月製造業受注
 - パウエル米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長議会証言
- 4日 日本1月有効求人倍率、日本1月雇用統計
 - 独1月貿易収支、独1月経常収支
 - ユーロ圏1月小売売上高指数
 - 米2月雇用統計

カナダ2月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】米国での金融引き締め観測とウクライナ情勢への警戒感に左右されやすい展開が続く中、ドル円は115円台を中心に一進一退の動きが継続するとした。

【ロシアがウクライナへ軍事侵攻】

ロシア軍は24日にウクライナの軍事施設への攻撃を開始した。ロシアは、ウクライナ東部の親ロシア地域の独立承認とともにその地域の保護の名目でロシア軍の侵攻を開始した。ウクライナ首都キエフでの軍事施設への攻撃なども行われている。ウクライナでは、全土に戒厳令を発令する事態となっている。

市場ではこうした動きを受けて、株式などのリスク資産が売りに押される事態となっている。米国債が買われて米10年物国債利回りは2%近辺から、一時1.85%近辺に低下（債券価格が上昇）した。その後、1.95%前後まで戻している。一方で、原油や金を買われて上昇している。NY原油は取引時間中に一時100ドルを付ける場面も見られた。

ロシアのウクライナ侵攻が現実となったことで、ドルと円が買われる状況となっている。ドル円は114～115円台での推移を見せている。円買いが勝る場面も見られたが、24日はドル買いが優勢となって、115円台後半まで上昇した。

2月28日の週は米雇用統計をはじめとして、注目度の高い経済指標が発表される。ただ、このところはロシアのウクライナ侵攻の影響で経済指標の注目度や影響が低下している。米国ではインフレ率の高まりから、米連邦準備制度理事会（FRB）は3月以降は利上げに動く可能性が高いとみられる。ただ、しばらくはウクライナ関連のニュースヘッドラインに振り回されやすい展開となりそうだ。

経済指標以外では2日と3日に米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の議会証言がある。3月15～16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが見込まれる中、インフレや利上げに対してどのような見解を打ち出すか、3月の利上げ幅やその後の利上げペースのヒントになるような発言があるかが注目される。

ドル円はドル買いと円買いの流れの中で、114～115円台での振幅が見込まれる。米国での利上げ観測の高まりはドルを支える要因となるものの、リスク回避の円買いの動きに相殺されて、大きく一方向に傾きにくいとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、113.00～115.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、2月28日に日本1月小売業販売額、日本1月鉱工業生産指数、米2月シカゴ購買部協会景気指数、3月1日に米1月製造業PMI、米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出、2日に米2月ADP雇用統計、3日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数、米2月ISM非製造業景況指数、米1月製造業受注、4日に日本1月有効求人倍率、日本1月雇用統計、米2月雇用統計などがある。

【ユーロドルは下値を探る展開か】

ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、原油価格の大幅な上昇などもあり、ロシアと地理的に近い欧州経済への悪影響が警戒されている。欧州株が下落するとともにユーロ売りの動きとなっており、ユーロドルは1.1200ドルを割り込み、1.1100ドルに接近する場面も見られた。

ユーロドルは1.1100ドルの節目割れが視野に入ってきた。ウクライナ情勢の悪化を受けて、ユーロ圏経済への悪影響が深刻化すると受け止められると、ユーロドルは一段と下値を探る展開が出てきそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900～1.1300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2月28日に豪1月小売売上高、3月1日に豪第4四半期経常収支、中国2月製造業購買担当景気指数、中国2月財新製造業購買担当景気指数、オーストラリア準備銀行（RBA）政策金利、独1月製造業PMI確報

値、ユーロ圏1月製造業PMI確報値、英1月製造業PMI確報値、独2月消費者物価指数速報値、カナダ第4四半期国内総生産（GDP）、2日に豪第4四半期国内総生産（GDP）、独2月雇用統計、ユーロ圏2月消費者物価指数速報値、カナダ銀行（BOC）政策金利、3日に豪1月住宅建設許可件数、豪1月貿易収支、独1月非製造業PMI確報値、ユーロ圏1月非製造業PMI確報値、英1月非製造業PMI確報値、ユーロ圏1月生産者物価指数、ユーロ圏1月雇用統計、4日に独1月貿易収支、独1月経常収支、ユーロ圏1月小売売上高指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。